

「誰か」のことではないのです！

＜全校朝会 (R5. 12. 4) 校長講話＞

昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。

世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、人権保障の目標や基準を初めて国際的にうたった画期的なものです。そして、その採択日である12月10日を、「人権デー(Human Rights Day)」と定めているのです。

翌年の昭和24年(1949年)からは、日本の法務省の人権擁護機関が、人権デーを最終日とする一週間の12月4日から12月10日までを「人権週間」と定め、毎年、各関係機関や団体等と協力して、全国的に人権啓発活動を強化して行っています。

つまり、今日が10日までの「人権週間」のスタート日です。

人権問題が依然世の中に存在しているのは疑う余地はありません。ひと昔前と比べると日本国民の人権意識は向上したと、個人的には受け止めています。表面化している人権問題は多様化・複雑化の傾向が強くなり、新たな人権問題も表出しているように思います。

例を挙げても、いじめ、虐待、障がい者・外国人・性的マイナリティ等に対する偏見や差別、部落差別、感染症や水俣病問題、拉致問題、インターネットによる人権侵害、セクハラ・パワハラ・モラハラ・等々、枚挙に暇がありません。

そのような中、学校生活での、特にタブレットの使用に関する内容だけを取り上げても、これまで校内でも様々なトラブルがありました。

これも一例を挙げると、校内で他人の写真を撮影してSNSにアップしたとか、友人同士のいさかいの場面をタブレットで撮影しながら周囲の者がそれを面白がって見ていたとか、他人のタブレットを本人に無断で使用して、本人になりすまして別の友達に迷惑なメッセージを送るとか、です。何が問題なのか。これらの行為は、タブレットの不適切な使用という範疇で収まるものではなく、明らか

に他人の人権を侵害するものです。誰かを傷つけ、場合によっては、誰かが命を落したりすることにもつながりかねないことに発展することもあるのです。

もちろん、関わった当事者には、同じようなことを繰り返すことのないように、自分の行為を冷静に見つめ直して反省して、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。

ただ、差別や偏見の加害者・被害者になる可能性は、誰にでもどこにでもあります。一方で、差別や偏見を気づかせたり、それを食い止めたり、その言動は間違っていると指摘するアクションを起こすことも、誰でもできることだと考えます。

大事なことは、これら人権問題の解決には、私たち一人一人が、様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権の大切さについて認識を深めることが不可欠だということです。

人権意識を磨く、というのは言葉に出すほど簡単ではなく継続した啓発や学習や経験が必要です。私自身も、あるいは先生方も、保護者や地域の皆さんにとっても永遠の努力義務だと思っています。

しかし、まずは、身近な人間に優しく接することから始めませんか。自分ができる小さな優しさを一つずつ一つずつ積み上げていきませんか。

もう一つ別の話をします。学校には、地域の方から、皆さんの情報がいろいろ寄せられます。残念ながら、いい話より耳の痛い話の方が多いのです。特に、交通マナーやルールに関することがほとんどです。

先週も放送で注意を呼びかけましたが、登校時、道路を何人も横に並んで、注意喚起のクラクションを鳴らしたが無視された、との内容がありました。

ここで、タブレットの不適切な使用と共通しているのは、みんなの感覚の中に、「公」と「私」のけじめがないということです。

みんなの学用品は「私」のもの、いわゆる私物です。学校の机やイスは「公」のものである公共物ですが、タブレットも、市教委から貸与された「公」のもので、タブレットはあなた自身のものではないのです。

道路にも「公道」と「私道」がありますが、あなたがたの登下校道は「公道」であり、あなたや二中学生のものではないのです。「私」同様、いやそれ以上に「公」を大切にしてもらいたいのです。

誰もが一番自分が大切ですし、自分自身のことを最優先に考えるのは当然でしょう。そのような中で人権感覚を磨くとは、自分同等あるいは自分以上に、自分以外の相手のことを自分の事のように大切に考える意識を高くもつことだと考えます。言い換えるならば、「公」の部分で、「私」同等あるいはそれ以上に、「私事」として高い意識をもつことです。

それをみんなができないとなると、自分自身も含めた「誰か」の命や財産やプライドを失う重大なリスクだって大いに起こり得るのだ、ということを肝に銘じてください。

75年目の「人権週間」にあたり、人権についてちょっと深く考えてみながら、令和5年が締めくくればいいですね。